

分担研究報告書

小田原市立病院における妊婦健診における感染性疾患スクリーニング

研究分担者 丸山 康世 小田原市立病院 産婦人科 担当部長
宮城 悦子 横浜市立大学 大学院医学研究科 生殖生育病態医学 教授

研究要旨

【目的】子宮頸がんはHPVワクチンと子宮頸がん検診による早期発見で罹患率の減少が期待される疾患となった。しかし、検診受診率は低く、妊娠が初めての契機となる女性も多い。妊娠が子宮頸部細胞診の受診の契機となったかを検討した。

【方法】2014年から2018年に当院で分娩した妊産婦を対象とし、診療録を後方視的に検討した。

【成績】対象症例は3346例で、中央値年齢は32歳、初産1650例(48.6%)、経産1743例(51.4%)であった。初診から当院で健診した症例は1635例(48.1%)、紹介症例は1758例(51.8%)であった。

妊娠前の施行例は639例(18.8%)で、内訳は子宮頸がん検診受診例441例(13%)、不妊治療や細胞診異常などの婦人科受診を契機の症例198例(5.8%)であった。妊娠を契機に施行された症例は2644例(77.9%)、不明症例は110例(3.3%)であった。

細胞診の結果はNILMが3250例(97%)、細胞診異常は96例(2.8%)に認められた。細胞診異常の詳細は、ASC-USが44例(1.2%)、ASC-Hが12例(0.4%)、LSILが19例(0.6%)、HSILが20例(0.6%)、SCCが1例(0.03%)であり、腺系の異常症例は認めなかった。細胞診異常症例のうち、妊娠中に初めて異常が見つかった症例は73例(76%)、子宮頸部異形成などのためフォローされていた症例が23例(24%)であった。

【結論】年齢の中央値は32歳と、すでに子宮頸がん検診の対象の女性がほとんどにも関わらず、妊娠前の1年以内に子宮頸がん検診を受診していた女性は18.8%にとどまった。妊娠を契機に子宮頸部細胞診を受けた割合は約8割であった。HPVワクチン接種が殆ど施行されていない現状で、検診受診率の低さは子宮頸がん予防の大きな課題である。

A. 研究目的

子宮頸がんは、HPVワクチンと子宮頸がん検診による早期発見で罹患率の減少が期待される疾患となった。しかし、検診受診率は低く、妊娠が初めての契機となる女性も多い。妊娠が子宮頸部細胞診の受診の契機となったかを検討した。

B. 研究方法

2014年から2017年の4年間の当院の分娩症例で、妊娠1年以内のスクリーニングで子宮頸部細胞診を受けた妊婦を対象とし、子宮頸部細胞診を受けた時期、ベセスダ分類の細胞診結果を後方視的に調査した。

(倫理面への配慮)

倫理委員会の承認を得ている。オプトアウトを捧持した。

C. 研究結果

細胞診異常は96例(2.8%)に認められた。細胞診異常の詳細は、ASC-USが44例(1.2%)、ASC-Hが12例(0.4%)、LSILが19例(0.6%)、HSILが20例(0.6%)、SCCが1例(0.03%)であった。

妊娠前の施行例は639例(18.8%)で、内訳は子宮頸がん検診受診例441例(13%)、不妊治療や細胞診異常などの婦人科受診を契機の症例198例(5.8%)であった。妊娠を契機に施行された症例は2644例(77.9%)、不明症例は110例(3.3%)であった。

D. 考察

年齢の中央値は32歳と、すでに子宮頸がん検診の対象の女性がほとんどにも関わらず、妊娠前の1年

以内に子宮頸がん検診を受診していた女性は18.8%にとどまった。

妊娠を契機に子宮頸部細胞診を受けた割合は約8割であった。

E. 結論

HPVワクチン接種が殆ど施行されていない現状で、検診受診率の低さは子宮頸がん予防の大きな課題である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

(1) 論文発表


1. Maruyama Y, Sukegawa A, Yoshida H, Iwaizumi Y, Nakagawa S, Kino T, Suzuki Y, Kubota K, Hirabuki T, Miyagi E: Screening for Infectious Diseases in Pregnancy Screening - Focusing on cervical cancer. 2021. (投稿中)

(2) 学会発表

1. 丸山康世, 助川明子, 宮城悦子: 当院における妊産婦の子宮頸部細胞診施行の時期についての検討. 第59回日本臨床細胞学会秋期大会, 横浜, 2020, 11.

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし




小田原市立病院における 妊婦健診における感染性 疾患スクリーニング

2020年11月07日 第3回PWHI班会議

小田原市立病院産婦人科

丸山康世

<方法>

- 2014年から2017年の4年間の当院の分娩症例で、妊婦健診未受診、カルテ記載不明例を除いた症例を対象とした。
 - 妊娠の1年以内に子宮頸部細胞診を受けた妊婦を対象として、症例背景、妊娠中の検査結果、ベセスダ分類の細胞診結果、陽性の場合の組織診結果を後方視的に調査した。
- 

症例背景

		全体 (人)	%
		3393	
年齢階級	15-19	62	1.8%
	20-24	341	10.1%
	25-29	790	23.3%
	30-34	1134	33.4%
	35-39	819	24.1%
	40-44	239	7.0%
	45-49	8	0.2%
妊娠歴	初産	1650	48.6%
	経産	1743	51.4%
喫煙	あり	263	7.8%
	なし	2823	83.2%
	不明	307	9.0%
BMI	やせ 18.5	522	15.4%
	普通	2400	70.7%
	肥満 25	459	13.5%
	不明	12	0.4%
妊娠中絶歴	あり	473	13.9%
	なし	1519	44.8%
	不明	1401	41.3%
早産有無	あり 34週未満	51	1.5%
	なし	3342	98.5%

<子宮頸部細胞診の施行時期>

細胞診の施行時期	例	%		例	%
妊娠前	639	18.8%	妊娠前のがん検診	441	13
			他院で妊娠前	86	2.5
			当院で妊娠前	112	3.3
妊娠契機	2644	77.9%	他院で妊娠契機	1197	35
			当院で妊娠契機	1447	43
不明	110	3.3%	未検	22	0.65
			時期不明	25	0.74
			カルテ破棄により不明	63	1.9

子宮頸部 細胞診結果

細胞診結果判明症例 3346例

- NILM 97% (3250例)
- 異常 2.8% (96例)

2015年の小田原市の20-49歳の要精検率 2.4%と同等

ASC-US	1.2%(44例)
ASC-H	0.4%(12例)
LSIL	0.6%(19例)
HSIL	0.6%(20例)
SCC	0.03%(1例)

腺系の異常症例は認めず

異常症例中、妊娠中に初めて発見された症例は73例
(76%)で、このうちCIN1以上の病変が発見されたのは、
42例 (57%)

感染症スクリーニング結果と 子宮頸部細胞診異常症例の他の感染症合併

感染症	感染症 検査結 果のある 症例 (人)	陽性者		NILM群			異常群			p value
		(人)	(%)	陰性 (人)	陽性 (人)	陽性 (%)	陰性 (人)	陽性 (人)	陽性 (%)	
HCV	3346	11	0.33%	3240	10	0.31	95	1	1.04	0.216
HBV	3346	18	0.54%	3232	18	0.55	96	0	0	0.465
梅毒	3346	18	0.54%	3243	18	0.22	96	0	0	0.649
HTLV-1	3346	2	0.06%	3244	2	0.06	96	0	0	0.808
トキソプラズマ	3292	59	1.79%	3140	58	1.81	93	1	1.06	0.589
クラミジア	3230	63	1.95%	3177	58	1.85	90	5	5.26	0.018
淋菌	2890	2	0.07%	2801	2	0.07	87	0	0	0.803
GBS	3346	519	15.51%	2677	512	15.75	83	7	7.29	0.034
カンジダ	3277	532	16.23%	2673	514	16.13	72	18	20	0.326